

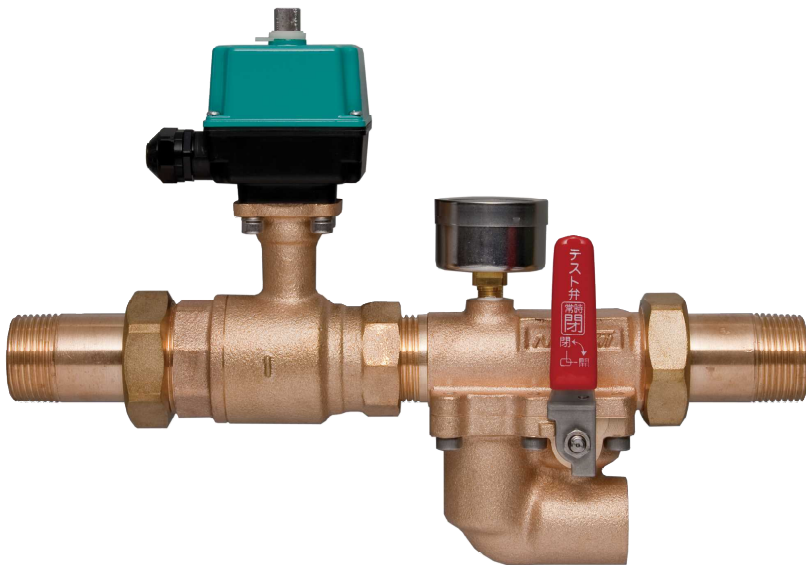
### 取扱説明書



スプリンクラー制御盤



コンシールドヘッド



電動弁ユニット

#### 火災時・故障時の操作手順について

##### 早見表

電動弁を開ける		P16
音を止める		P18
放水を止める		P18
故障灯が点滅している場合		P19

#### 警告



製品を安全にかつ正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。お読みになった後は、いつでも製品の不明点を解決できるように、大切に保管してください。

## はじめに

- 本設備は一般の水道を使用する乾式の特定施設水道連結型スプリンクラー設備です。
- 本設備は消防法で定められている特定施設水道連結型スプリンクラー設備と同等の火災抑制性能を有するものとして日本消防検定協会の特定機器評価を取得しています。  
(型式番号：特評第240号)
- 製品を安全にかつ正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも製品の不明点を解決できるように、大切に保管してください。
- 取扱説明書の最後にある「保証書」に記載もれがないことを確認してください。
- 設置している機器に、変形が見られたり、スプリンクラー制御盤に故障表示が見られるなど、故障かなと思った場合には下記の工事店（販売店）にご連絡ください。

連絡先（名刺貼付欄）

会社名

電話番号

※工事店（販売店）の皆様へ

- 取扱説明書をお客様にお渡しする前に、上覧にご名刺を貼り付けるか連絡先を記入してください。

# 目次

1. 安全上のご注意	P4
2. システム図	P7
3. 作動フロー	P8
4. 各機器の働き	P9
4-1. コンシールドヘッド	P9
コンシールドヘッド用保護カバー	P10
4-2. スプリンクラー制御盤	P11
4-3. 電動弁ユニット	P12
4-4. 警報ブザー	P13
5. ご使用方法	P14
5-1. 平常時	P14
5-2. 火災が発生したときの対応	P15
5-3. 停電時	P17
5-4. 非火災時の対応	P18
5-5. 故障時の対応	P19
5-6. 時刻の設定	P20
5-7. 電池試験	P21
5-8. 各状態に対するランプおよび警報音の作動	P22
6. 点検	P23
7. 機器仕様	P24
保証書	P27

# 1 安全上のご注意

## ■安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は、製品を正しく安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。記載内容を十分に理解し、必ず指示された内容に従ってください。

### 警告

内容を守らなかった時に、取扱関係者が死亡または重傷を負うか、防災機能に致命的な悪影響を及ぼすことが想定される場合。

### 注意

内容を守らなかった時に、取扱関係者が傷害を負うか、物的損害が発生する危険な状態が生じる可能性がある場合、または防災機能の一部に悪影響を及ぼす可能性がある場合。



「一般的な注意」事項を示す場合





「一般的な禁止」事項を示す場合




「一般的な指示」事項を示す場合

# 安全上のご注意



## 安全にご使用していただくために

警告		スプリンクラー制御盤の本体を開けないでください。内部には電圧がかかっている部分があり、感電や故障の原因となります。
		機器に液体（水、洗剤、飲み物など）を入れたり、濡らしたりしないでください。感電・故障・発火の原因となります。
		スプリンクラー制御盤・警報ブザーに耳を近づけて音声警報を聞かないでください。聴力障害などの原因となる恐れがあります。
		スプリンクラー制御盤の内部ケーブルの抜き差しなど、機器の分解や改造は行わないでください。故障の原因や火災時に有効に作動しないなどの不具合が生じる可能性があります。
注意		コンシールドヘッドの点検用磁石は、作動確認の際に使用できるように大切に保管してください。




## 火災が発生したときは




警告		火災の場合は、現場を確認し、火災の状況により、初期消火、消防機関への通報、避難などの適切な対応を取ってください。
		火災時に電動弁を強制的に開放する場合は、スプリンクラー制御盤の開ボタンを3秒以上押し続けてください。
		停電が1時間以上続いた際に火災が発生した場合、スプリンクラー制御盤の操作では電動弁が開放しない恐れがあります。その場合は電動弁を手動で開放してください。（P17参照）

## 火災後、復旧するときの注意

警告		電動弁の閉止操作は必ず火災が鎮火した事を確認した後に行ってください。
		放水停止後は、点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先に復旧を依頼してください。
		本設備の構成機器（コンシールドヘッドなど）を交換する場合には必ず「7. 機器仕様」に示す機器を使用してください。指定以外の機器を使用した場合、火災時などに有効に作動しないなどの不具合が生じる可能性があります。
注意		一度作動したコンシールドヘッドは、再使用できません。新しいコンシールドヘッドに交換してください。

## 設備を正常に機能させるための注意

警告		コンシールドヘッドの周囲に物を取り付けたり、置いたりしないでください。 感知障害および、散水障害となる恐れがあります。	
		コンシールドヘッドに衝撃を与えないでください。コンシールド部を損傷させ、コンシールド部が落下する可能性があります。また、衝撃を受けたコンシールドヘッドは、正常に作動しない恐れがあります。	

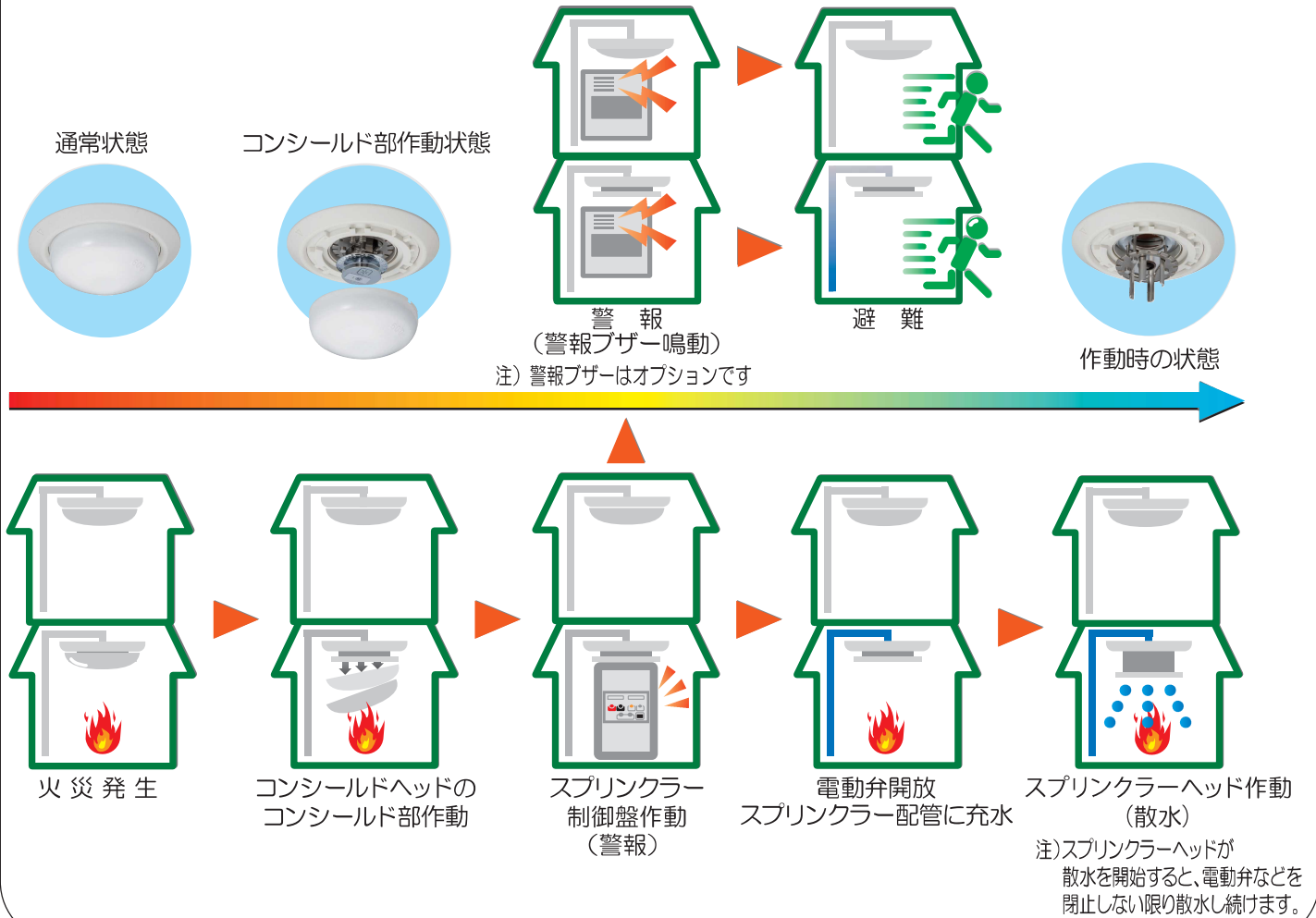
警告	⊘	<p>コンシールドヘッドに熱を加えないでください。直射日光を当てたり、直近で白熱球やストーブなどの熱源を使用しないでください。コンシールド部が落下したりスプリンクラーヘッドが誤作動する恐れがあります。</p> 
		<p>コンシールドヘッドに空調の風を直接当てないでください。温風の場合は誤作動、冷風の場合は感知遅れの恐れがあります。</p> 
		<p>コンシールドヘッドに塗装しないでください。感知障害や作動不良になる恐れがあります。</p> 
	!	<p>コンシールド部が落下したときは、点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先に依頼し、コンシールドヘッドを交換してください。</p>
		<p>コンシールドヘッドに物をぶつけたりして漏水あるいは破損したときは、点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先に依頼し、コンシールドヘッドを交換してください。</p>
		<p><u>スプリンクラー制御盤または警報ブザーの電源は常に「ON」</u>にしておいてください。「OFF」では火災時に電動弁が開放できず散水されません。また警報ブザーも警報を発することができません。日頃から電源ランプが点灯していることを確認してください。</p>
⚠	<p>水道の断水または給水栓で多量に水を使用し給水圧力が低下したときには正常な散水効果が得られない場合があります。</p>	
注意	⊘	<p>スプリンクラー制御盤の直近で携帯電話、無線機などを使用しないでください。誤作動の原因となることがあります。</p>
		<p>コンシールドヘッド、スプリンクラー制御盤・警報ブザーのお手入れにはベンジン、シンナーなどの薬品は使用しないでください。機器の表面を痛めたり、変色の原因となります。</p>
		<p>スプリンクラー制御盤の予備電源は充電電池を使用しています。ユーザーでの交換は絶対に行わないでください。機器の破損・ケガの原因となります。交換の際は点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先に交換を依頼してください。</p>
	!	<p>機器の操作は必ず手で行ってください。手以外のものでは確実な作業ができず、機器を破損することがあります。</p>
		<p>スプリンクラー制御盤の閉ランプ（青）が点灯していることを確認してください。開ランプ（赤）が点灯の場合はスプリンクラー配管に通水中です。</p>
		<p>特定施設水道連結型スプリンクラー設備として設置する場合、年2回の法定点検の実施義務があります。本システムの自動点検は法定点検の代替となりませんので、点検業者に依頼のうえ、法定点検を実施してください。</p>
<p>消防法で対象外の一般住宅に設置した場合には、法定点検の義務はありませんが、性能を維持するため6ヶ月を目安に点検業者に依頼して法定点検を実施してください。（電動弁の作動試験を自動的に年4回行うこと（自動点検）もできます。スプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までお問い合わせください。）</p>		



### 3 作動フロー

火災時には下記の作動フローでコンシールドヘッド（コンシールド部、スプリンクラーヘッド）、スプリンクラー制御盤、電動弁が自動で作動し散水することで火災を抑制します。

#### 水道連結型スプリンクラー設備 SPlashの作動フロー

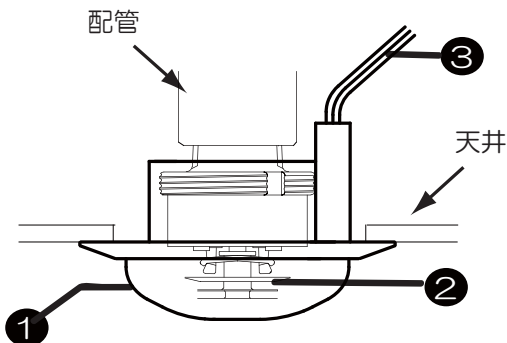




## 4 各機器の働き

### 4-1. コンシールドヘッド

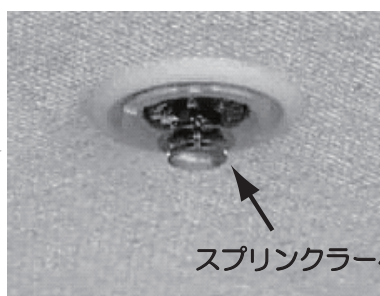
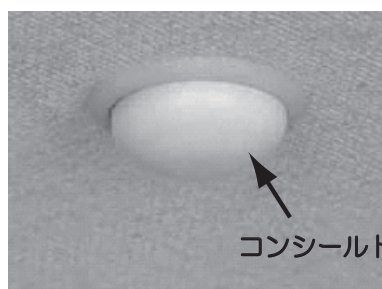
コンシールドヘッドは、火災の熱により作動するもので、下図のようにコンシールド部とスプリンクラーヘッドで構成されています。



・スプリンクラーヘッドは配管に接続され、コンシールド部はスプリンクラーヘッドを覆うように取り付けられています。

- ① コンシールド部 . . . . . 火災の熱によりコンシールド部が作動落下し、スプリンクラー制御盤に火災信号を伝えます。
- ② スプリンクラーヘッド . . . . . 火災の熱によりスプリンクラーヘッドが作動すると散水します。
- ③ リード線 . . . . . コンシールド部が作動すると火災信号をスプリンクラー制御盤へ伝えます。

#### ■火災時のコンシールドヘッドの動作フロー



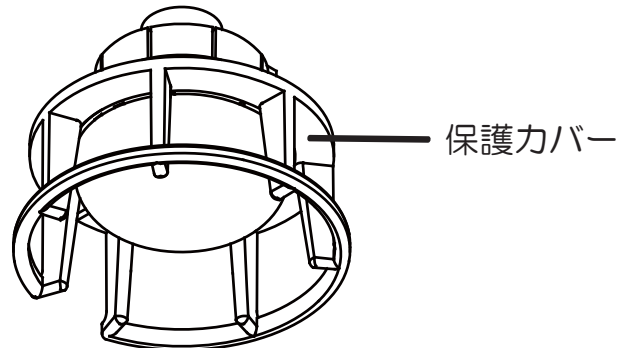
平常時では、コンシールド部はスプリンクラーヘッドと共に取り付けられている。

火災の熱によりコンシールド部の温度が60度になるとコンシールド部が作動落下し、スプリンクラーヘッドが露出すると共に、スプリンクラー制御盤に火災信号を送る。

火災の熱によりスプリンクラーヘッドの温度が72度になると、スプリンクラーヘッドが作動し散水を開始をする。

## コンシールドヘッド用保護カバー

この保護カバーは、収納室などに設置されたコンシールドヘッドに取り付けます。収納室で物を取り出す際に誤ってコンシールドヘッドに物を当てた場合、コンシールドヘッドが変形すると、火災時に正常に作動しなくなる可能性があります。この保護カバーはそのような外力からコンシールドヘッドの変形を防止します。



- 本製品はオプション品です。

### 保護カバーを付けた場合の注意事項

#### 警告

この保護カバーを付けた場合でもコンシールドヘッドに物を当てないように注意してください。また、配管を叩くなどの行為も行わないでください。

細い棒による外力など、保護カバーを付けた場合でも直接外力がコンシールドヘッドに加わる場合には保護カバーは変形を防止できません。外力が加わりコンシールド部が変形してしまった場合には、コンシールドヘッド全体（コンシールド部とスプリンクラーヘッド）を新品に交換してください。



細い棒が当たってコンシールド部が変形

コンシールドヘッドは火災の熱を感知し、確実に作動するために、精密部品で組み立てられています。物が当たったり、配管を叩いたりするなどの外力がコンシールドヘッドに加わると内部部品にゆがみが生じ、火災時に作動しないなどの不具合が生じる可能性があります。保護カバーを付けた場合でも、コンシールド部が斜めにずれたり、保護カバーが壊れたり、コンシールド部がスプリンクラーヘッドから脱落する程の大きな外力が加わった場合にはコンシールドヘッド全体を新品に交換してください。



斜めにずれた場合



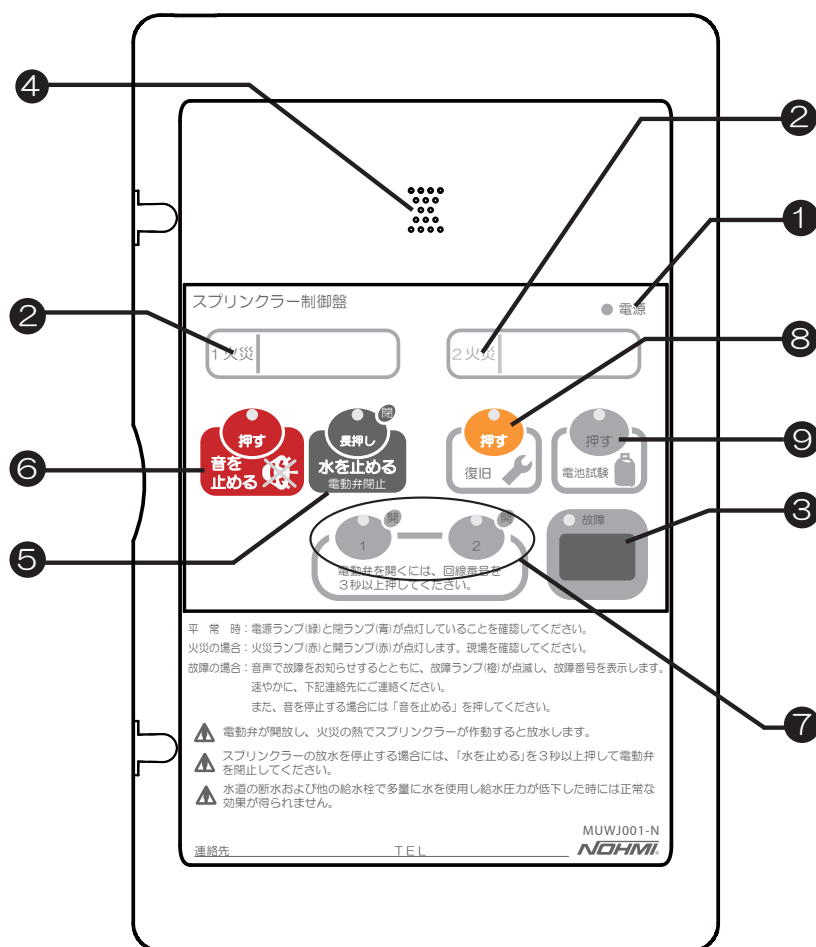
保護カバーが壊れた場合



保護カバーが脱落した場合

## 4-2. スプリンクラー制御盤

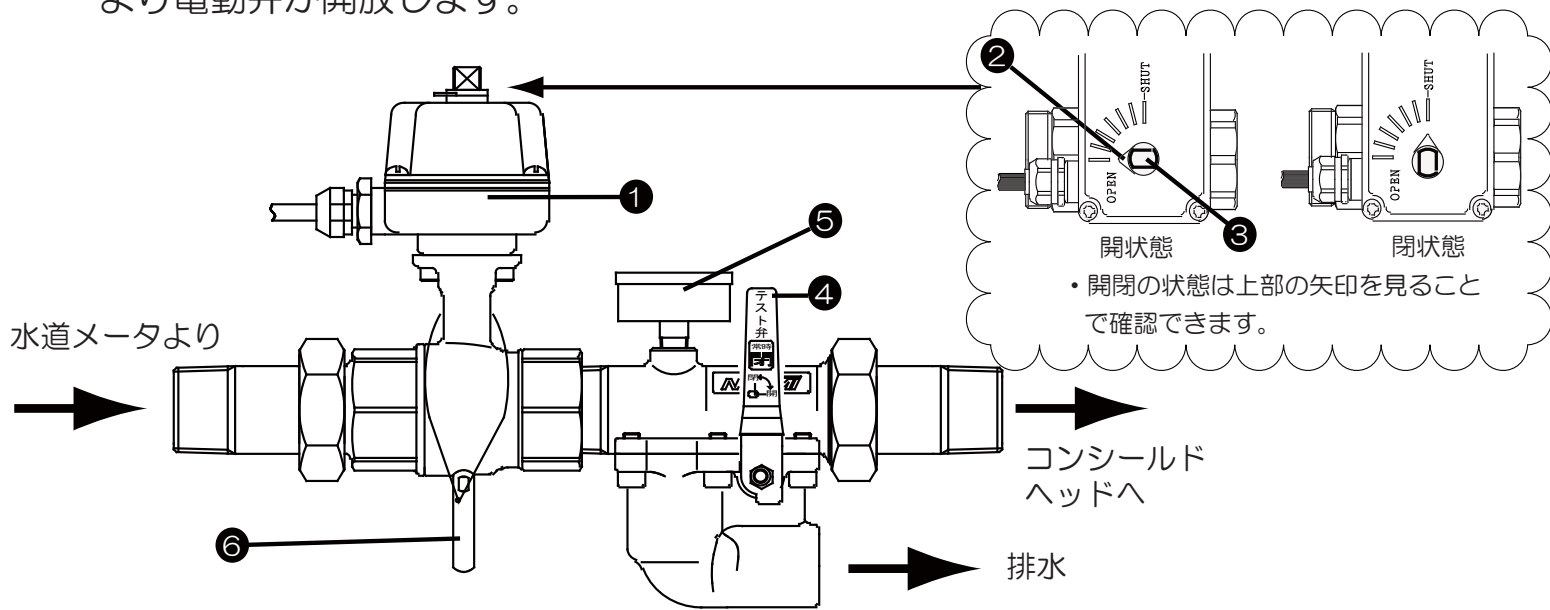
コンシールド部からの火災信号を受信し、該当する電動弁を開放すると共に警報メッセージを発して、火災をお知らせします（別に警報ブザーを設けた場合は同時に鳴動します）。



- ①電源ランプ・・・・・・・・電源が「ON」の状態の時に点灯します。（停電などで予備電源を使用している場合には点滅します。）
- ②火災ランプ・・・・・・・・火災が発生した区域の火災ランプが点灯します。  
1, 2は監視区域を表しています。
- ③故障番号表示部・・・・故障などのときに故障番号を表示し、故障ランプが点滅します。
- ④スピーカー・・・・・・・・火災警報メッセージや故障警報メッセージなどを発します。
- ⑤「水を止める」ボタン・・「水を止める」ボタンを3秒以上押すことでスプリンクラーヘッドからの散水を停止することができます。  
平常時は上部の閉ランプ（青）が点灯しています。
- ⑥「音を止める」ボタン・・「音を止める」ボタンを押すことで火災警報メッセージや音声告知を停止することができます。また警報ブザーをつないでいる場合は、警報ブザーの鳴動も停止します。
- ⑦開ボタン・・・・・・・・開ボタンを3秒以上押すことで該当する監視区域の電動弁を開放することができます。
- ⑧復旧ボタン・・・・・・・・スプリンクラー制御盤を復旧します。（点検時などで使用します）
- ⑨電池試験ボタン・・・・予備電源（充電電池）の状態が適正か確認できます。

## 4-3. 電動弁ユニット

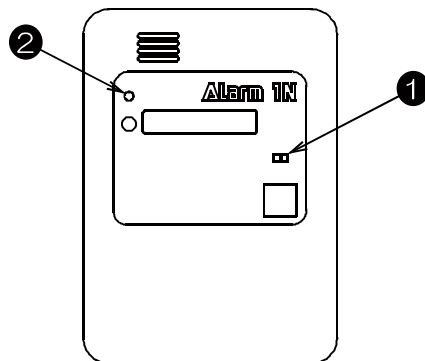
電動弁は平常時閉止しており、火災時にスプリンクラー制御盤からの火災信号により電動弁が開放します。



- ① 電動弁・・・・・・・・・・・・・・ スプリンクラー制御盤の信号を受け、弁を開閉します。
- ② インジケータ・・・・・・・・・・・・・・ 電動弁の開閉の状態を表示します。
- ③ 凸部（手動開放用）・・・・・・・・・・・・・・ 電動弁を直接開閉する際にハンドルをかける回転軸です。
- ④ テスト弁・・・・・・・・・・・・・・ 法定点検時に開放します。平常時は閉の状態にしてください（テスト弁のハンドル位置は上図が閉状態です）。
- ⑤ 圧力計・・・・・・・・・・・・・・ 法定点検時に使用します。
- ⑥ ハンドル・・・・・・・・・・・・・・ 電動弁を直接開閉する際に使用するハンドルです。

## 4-4. 警報ブザー

警報ブザーは、火災時にコンシールド部が作動すると、スプリンクラー制御盤からの火災信号により鳴動します。スプリンクラー制御盤から離れた場所で警報音を鳴らしたい場合に設置します。(火災信号が入った際、設置されたすべての警報ブザーが鳴動します。警報ブザーを監視区域1, 2に設置した場合、個別に鳴動させることはできません。)



- ① 電源スイッチ・・・・・・・・・・ 日常必ず「ON」の状態にしてください。
- ② 電源ランプ ・・・・・・・・・・ 電源が供給されていると点灯します。

• 本製品はオプション品です。

# 5 ご使用方法

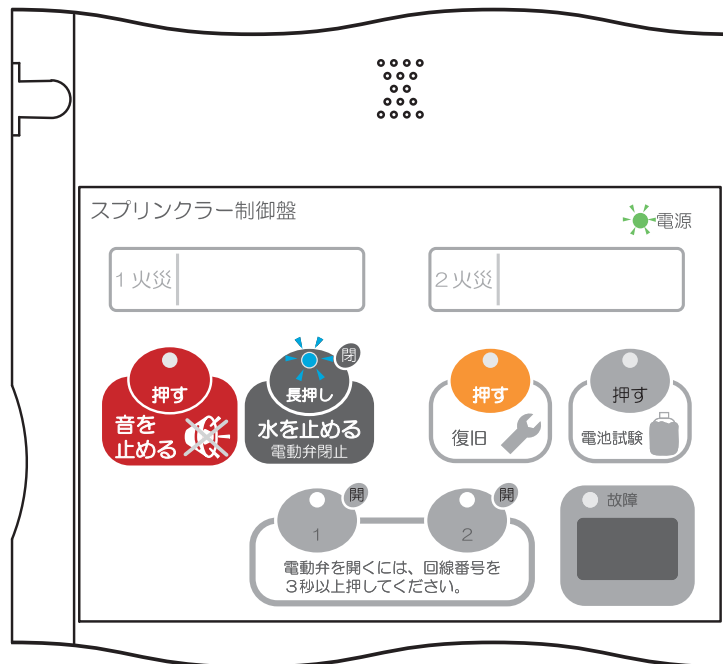
## 5-1. 平常時

スプリンクラー制御盤の電源ランプと閉ランプが点灯していることを確認してください。（平常時は電動弁が閉止しており、スプリンクラー設備に水は入っていません）

警告



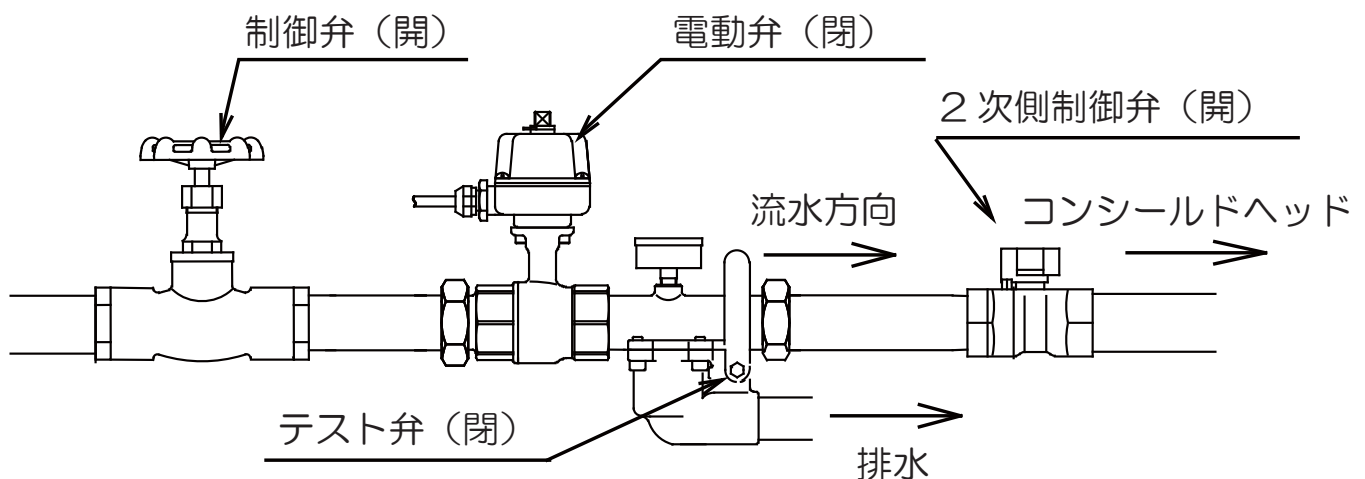
電源ランプが消えている時（電源がOFFまたは停電がおよそ1時間以上続いた場合）は、予備電源がなくなり自動で電動弁を開放できなくなります。火災が発生した場合にはハンドルを用いて手動で電動弁を開放してください。（停電時には5-3. 停電時の説明を参照ください）



警告



平常時の各弁の開閉状態は以下の通りです。開閉の状態を確認してください。



## 5-2. 火災が発生したときの対応

■故障時を除き、各機器は散水まで全自動で動くためお客様の操作は必要ありません（停電時には5-3 停電時の説明を参照ください）。

### 対応1

現場を確認し、火災の状況により、初期消火、消防への通報、避難などの適切な対応をとってください。

- 火災が発生し、コンシールド部が作動すると火災が発生した区域の「火災ランプ」が点灯し、音声による火災警報メッセージを繰り返します。

**ポイント** 火災が発生した監視区域の「火災ランプ」が点灯します。

- 電動弁が開放し「開ランプ」が点灯します。スプリンクラー設備の配管内に送水されます。

**ポイント** スプリンクラーヘッドが火災の熱により作動すると散水を開始します。  
●コンシールド部が作動しただけではスプリンクラー設備の配管内に充水されますが散水はしません。

- 警報ブザーを接続している場合にはすべての警報ブザーが鳴動します。
- 自動火災報知設備に接続している場合には受信機に火災信号を出力します。

### 対応2

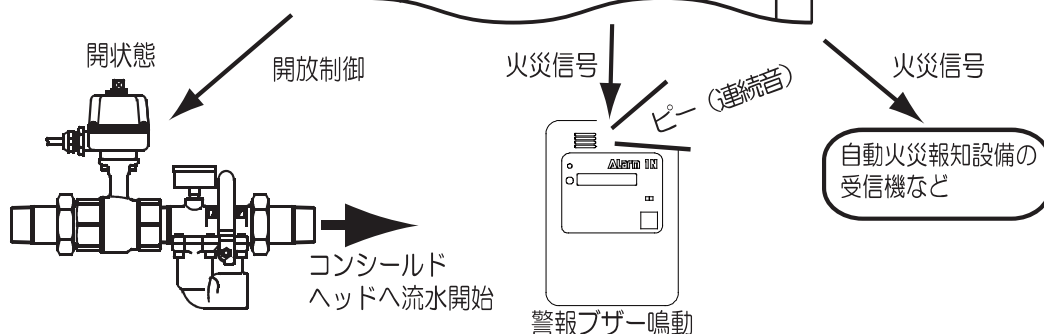
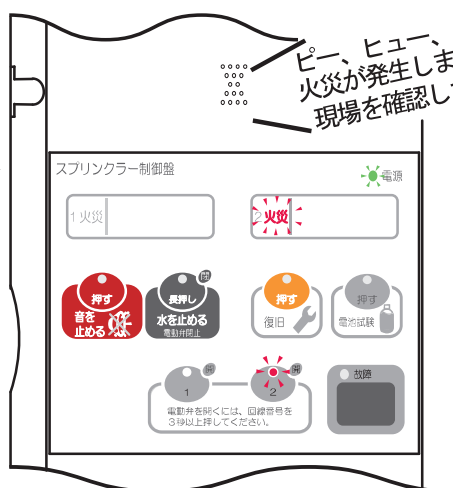
鎮火確認、消防による現場対応などが全て完了した後に点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までご連絡いただき、コンシールドヘッドを新しいものに交換し、設備を復旧してください。

【例：監視区域2で火災が発生した場合】



コンシールド部作動

火災信号

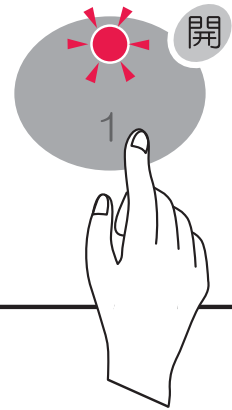


## ■火災を発見して手動で電動弁を開放する場合

電動弁は手動でも開放できます。  
開放したい監視区域の開ボタンを3秒以上、長押ししてください。

ポイント

長押ししなかった場合には「ピッ、電動弁を開くには3秒以上押してください」とメッセージが流れます。  
また、電動弁が開いた場合には「電動弁が開きました」とメッセージが流れます。

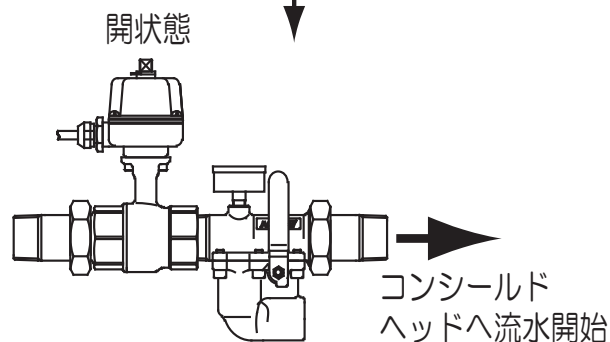


【例：監視区域2で火災が発生した場合】



コンシールドヘッドが作動する前に電動弁を手動で開放

開放制御



- 電動弁が開き、配管内に水が充水されます。ただし、スプリンクラーヘッドが開放するまでは散水しません。



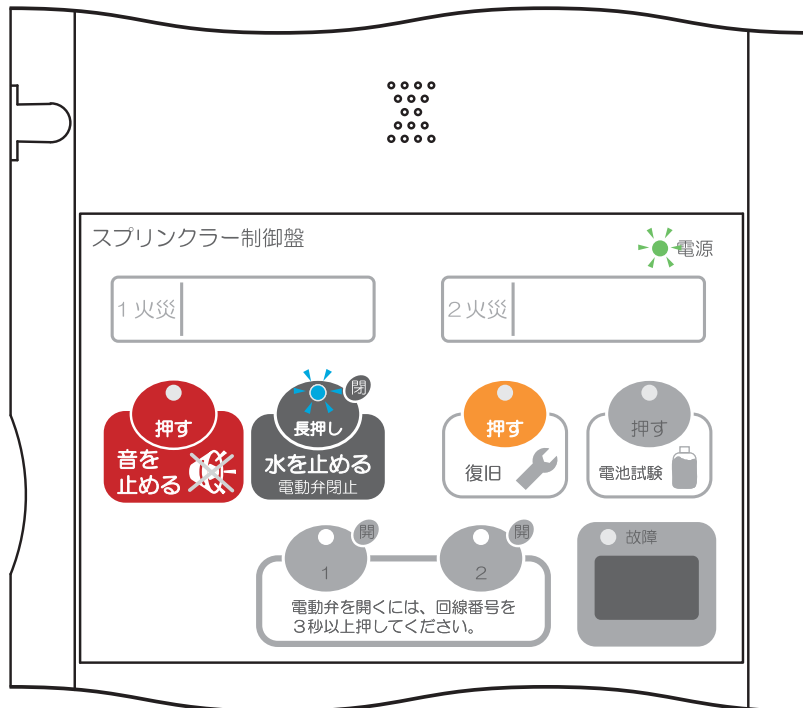
## 5-3. 停電時

停電時には、電源が予備電源に切り替わります。  
(電源ランプが点滅します)

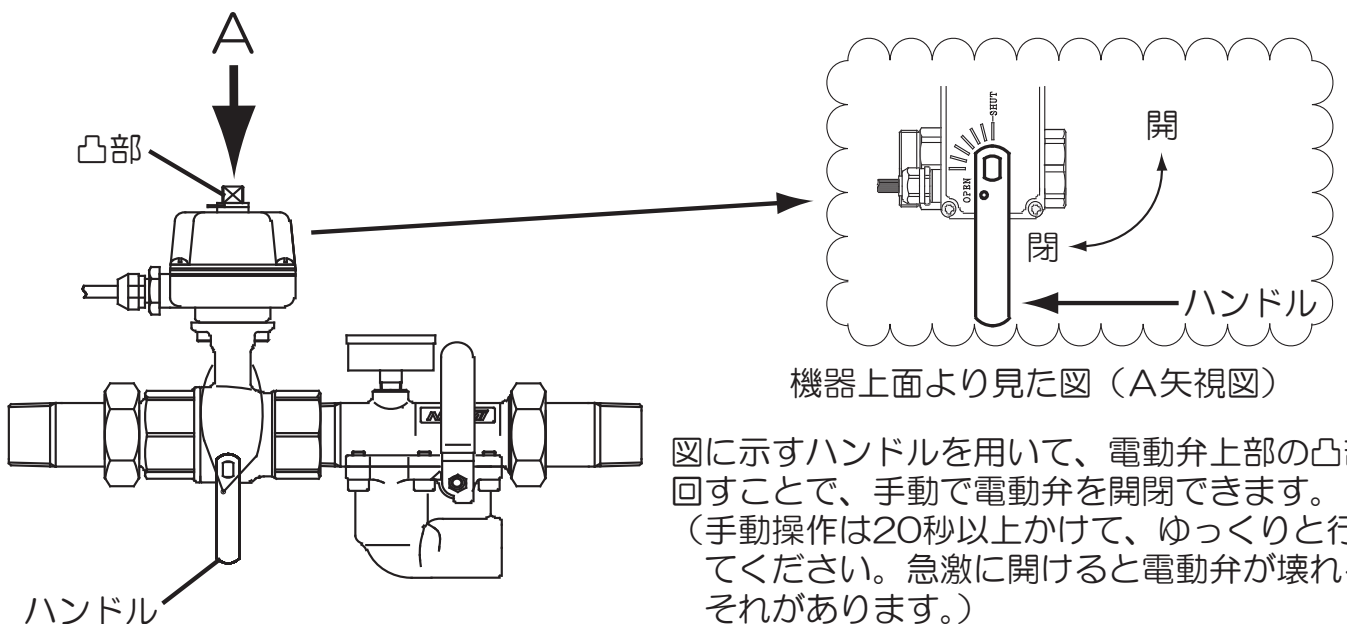
注意



停電が1時間以上続くと、予備電源の残量が少なくなるため火災が発生した場合、電動弁が完全に開放しない恐れがあります。その場合は火災発生区域の電動弁をハンドルを用いて手動で開放してください。  
停電回復後、予備電源の残量が少なくなった場合、満充電まで約50時間かかります。



### ■電動弁を手動で開放する方法



機器上面より見た図 (A矢視図)

図に示すハンドルを用いて、電動弁上部の凸部を回すことで、手動で電動弁を開閉できます。  
(手動操作は20秒以上かけて、ゆっくりと行ってください。急激に開けると電動弁が壊れるおそれがあります。)

注意

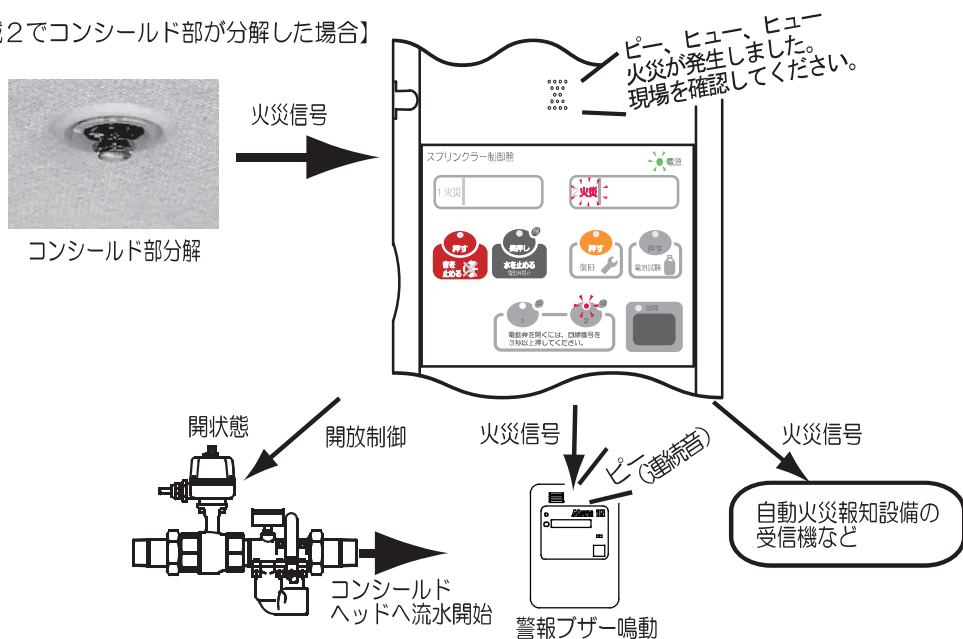


必ず電源が切れている状態で行ってください。  
スプリンクラー制御盤から電源が供給されている場合は手動では動きません。

## 5-4. 非火災時の対応

コンシールドヘッドに外力が加わるなどの理由によりコンシールド部が分解し、火災信号が発せられた場合、各機器は火災時と同様の動作を行います。

【例：監視区域2でコンシールド部が分解した場合】



- 火災が発生していないことを確認し、火災警報メッセージを停止し、電動弁を閉止してください。

### 対応1

火災が発生していないことを確認し、「音を止める」ボタンを押してください。「音響停止ランプ」が点灯し、火災警報メッセージおよびすべての警報ブザーの鳴動が止まります。



### 対応2

電動弁を閉止するには「水を止める」ボタンを3秒以上、長押ししてください。電動弁が閉止すると「閉ランプ」が点灯し、「電動弁が閉まりました」とメッセージが流れます。ボタンを長押ししなかった場合には「ピッ、電動弁を閉めるには3秒以上押ししてください」とメッセージが流れます。



### 対応3

点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までご連絡いただき、早急にコンシールドヘッドを新しいものに交換し、設備を復旧してください。

### 警告



監視区域2の火災ランプが点灯している状態で電動弁を閉止すると監視区域2で実際に火災があった場合には自動で電動弁を開放することができません。ただし、監視区域1で火災があった場合には自動で電動弁を開放することができます。監視区域1、2が逆の場合も同様です。

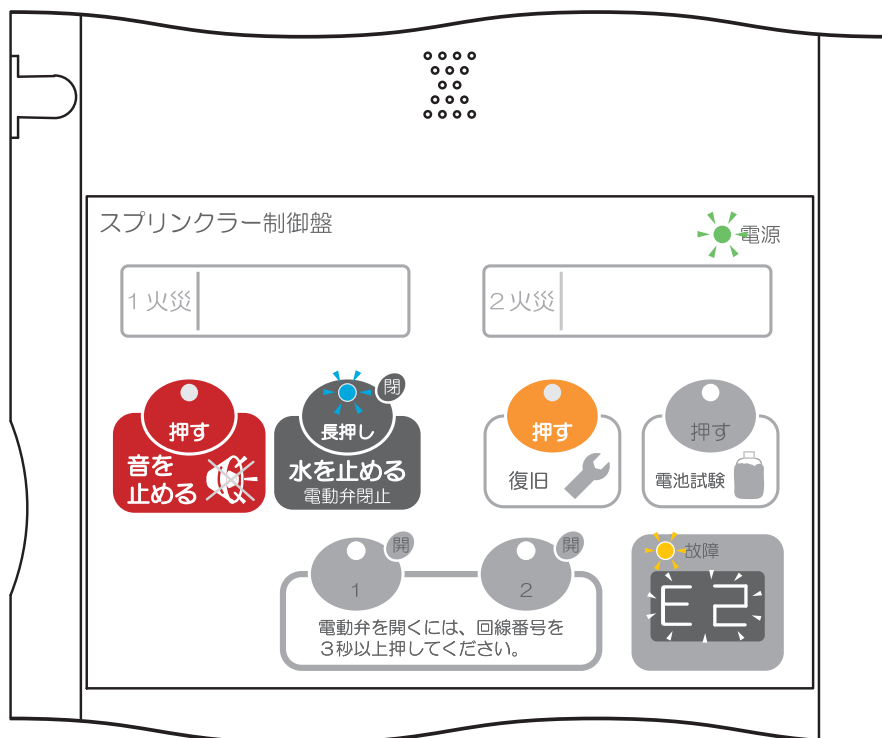
非火災時、電動弁を開放したままにすると、電動弁ユニットから排水に水が流れ続けます。ただし、火災時にはスプリンクラーヘッドから散水できます。

## 5-5. 故障時の対応

故障など、機器に異常が生じた場合の対応

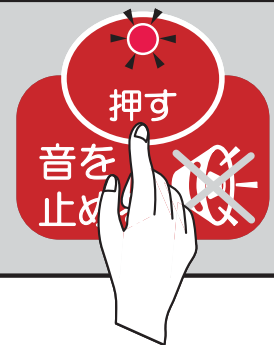
- 故障すると、「故障ランプ」が点滅し、故障警報メッセージ「ピッ、ピッ、ピッ、故障です。表示を確認してください。」を繰り返します。
- 故障の状態により「故障番号」が表示されます。故障番号と故障内容は以下のとおりです。
- エラー表示中は正常に動作しない場合があります。

E0：予備電源が接続されていません  
E1：内部回路が故障している恐れがあります  
E2：予備電源の容量が少なくなっている恐れがあります  
E3：電動弁が故障している恐れがあります  
E4：監視区域1の電路が断線している恐れがあります  
E5：監視区域2の電路が断線している恐れがあります  
E6：スピーカーが故障している恐れがあります  
00：時刻が設定されていません。（設定方法はP20参照）



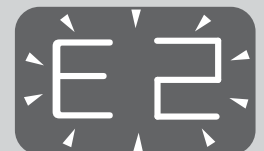
### 対応1

故障警報メッセージを止めるには、「音を止める」ボタンを押してください。「音響停止ランプ」が点灯し、音が止まります。音を止めたあとに火災信号が入力されるなど新たなメッセージがある場合には再鳴動します。



### 対応2

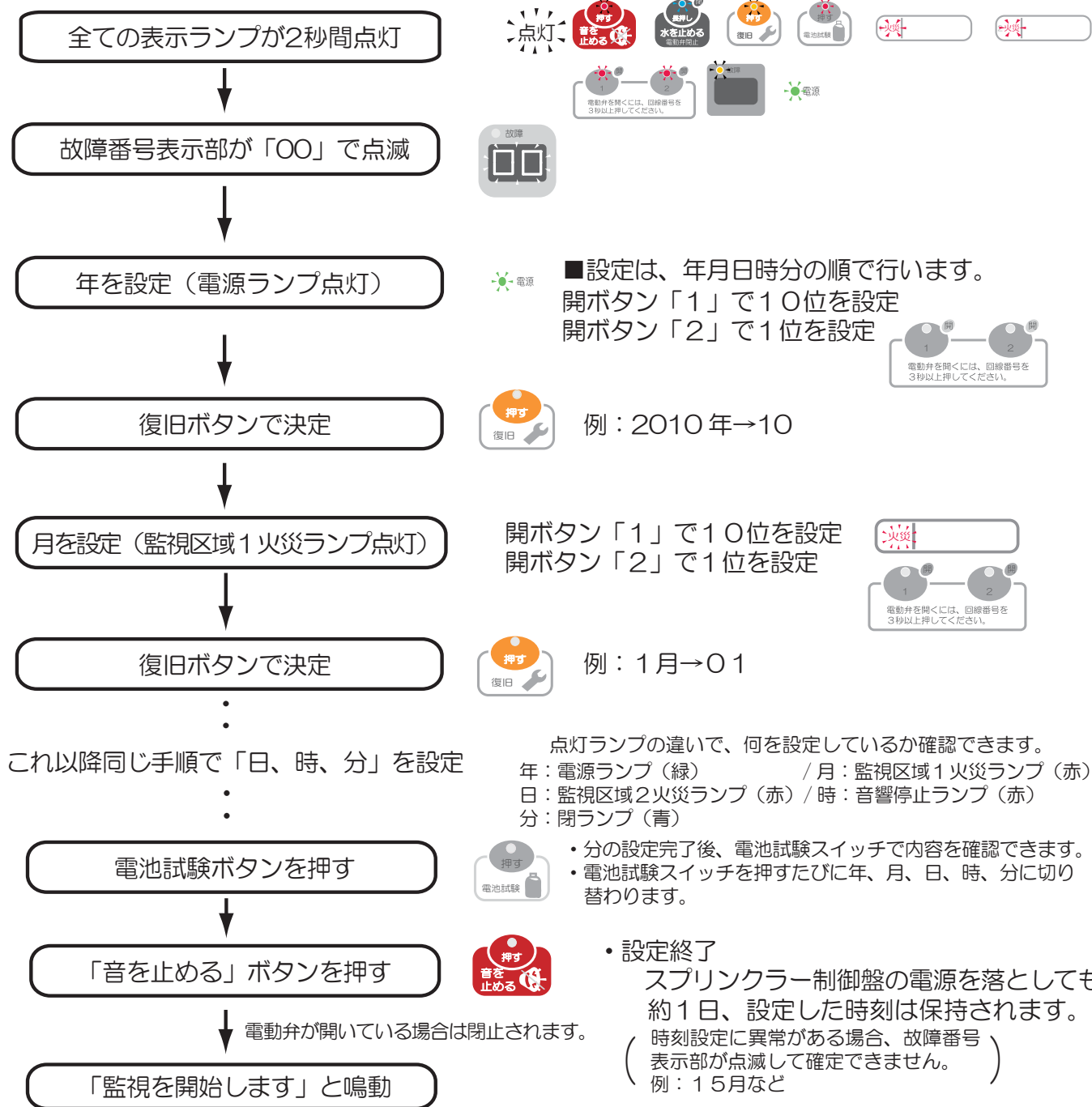
故障番号を確認し、点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先に点検・修理を依頼してください。



## 5-6. 時刻の設定

■工事店・点検業者向：スプリンクラー制御盤の電源を「ON」にした際、以下の手順に従って時刻の設定をしてください。

※時刻が未設定の場合、エラー表示がされないため、設備が正常か確認できません。



◇時刻を再設定する時の操作方法（電源を「ON」にした際、時刻設定にならない場合も含む）

- ① 閉ランプが点灯していることを確認する。
- ② 「音を止める」ボタンを押し、音響停止ランプを点灯させる。
- ③ 「水を止める」ボタンを押しながら、監視区域1と監視区域2の開ボタンを3秒以上押し、時刻設定に切り替える。
- ④ 電池試験ボタンを押し、変更したい「年、月、日、時、分」に切り替える。
- ⑤ 監視区域1、2の開ボタンを押し、時刻を合わせたら復旧ボタンで確定させる。
- ⑥ 以降、④と⑤の操作を繰り返し、設定完了後に「音を止める」ボタンを押す。

# 5-7. 電池試験

工事店・点検業者向け：予備電源の確認を以下の手順で行ってください。

- 電池試験ボタンを押すことで予備電源の試験を実施します。
- 試験時間は20秒で、試験中は「ピッピッ」と鳴動します。

電池試験ランプ点灯



電池試験ボタンを押す

[ 正常な場合 ]

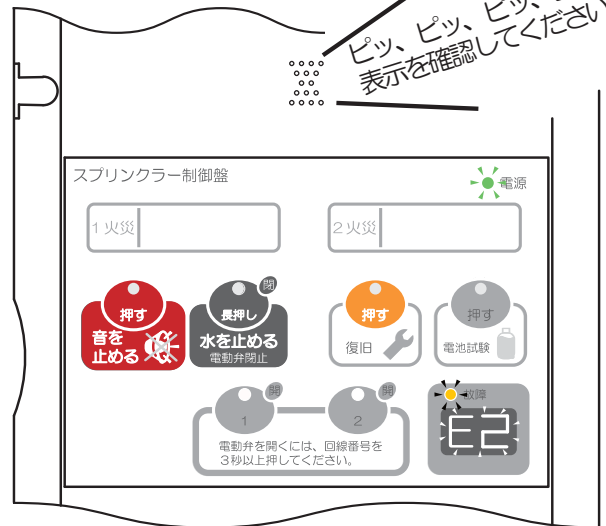
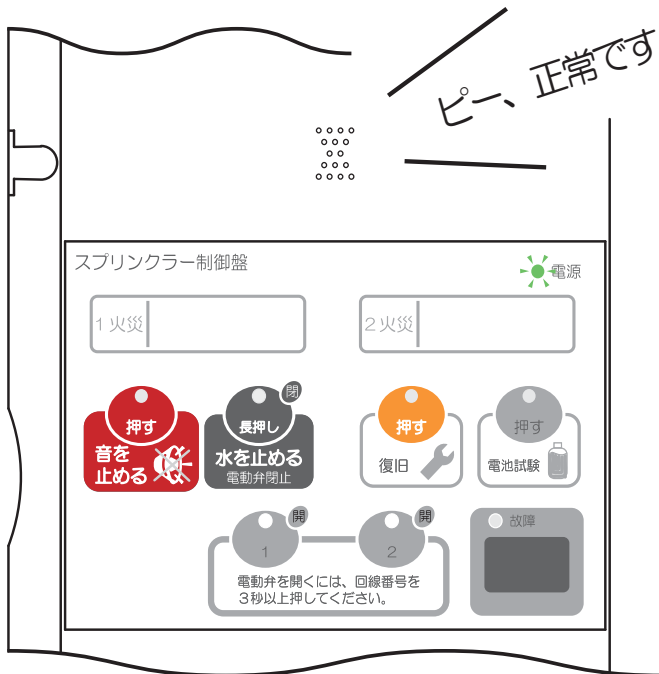
[ 寿命切れの場合 ]

試験終了時に「ピー、正常です」と鳴動して、平常状態に戻る

- 故障ランプが点滅し、E2が表示される。
- 「ピッ、ピッ、ピッ、故障です。表示を確認してください」と2回鳴動

ピー、正常です

ピッ、ピッ、ピッ、故障です。表示を確認してください。



予備電源を交換  
(交換は施工設定要領書参照)

電池試験を再度実施し、正常であれば平常状態に戻る

## 5-8. 各状態に対するランプおよび警報音の作動

状態	動作		各ランプの表示	警報メッセージおよび音声告知
平常	電源ランプ	緑（点灯）		
	閉ランプ	青（点灯）		
火災	火災ランプ	赤（点灯）		「ピー、ヒュー、ヒュー、火災が発生しました。現場を確認してください。」
	開ランプ	赤（点灯）		
故障	故障ランプ	橙（点滅又は点灯）		「ピッ、ピッ、ピッ、故障です。表示を確認してください。」 （10秒に1回鳴動）
	故障番号	E0~E6, 00		
開ボタンを押し続けられない場合				「ピッ、電動弁を開くには3秒以上押してください」 （1回鳴動）
電動弁開放後	開ランプ	赤（点灯）		「電動弁が開きました。」（10秒に1回鳴動）
「水を止める」ボタンを押し続けられない場合				「ピッ、電動弁を閉めるには3秒以上押してください」 （1回鳴動）
電動弁閉止後	閉ランプ	青（点灯）		「電動弁が閉まりました。（1回鳴動）」（閉止応答）
停電時（電池駆動中）	電源ランプ	緑（点滅）		「ピッ」（10秒に1回鳴動）
電池試験中	電池試験ランプ	赤（点灯）		「ピッ、ピッ、ピッ・・・ピー、正常です。」
音響停止中	音響停止ランプ	赤（点灯）		

## 6 点検

### ■ 日常点検のお願い

- 平常状態（電源ランプ点灯、閉ランプ点灯、その他は消灯）になっているか。
- 変形、損傷、脱落、著しい腐食などしていないか？
- バルブの開閉状態は適切か？

日常点検でこのような異常があった場合は、すみやかに点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までご連絡願います。

### ■ 日常のお手入れについて

- 本機本体の汚れは、乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。  
汚れが落ちにくいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布にひたし、よくしぼってから拭いてください。その際、本機に水などがかからないようご注意ください。
- ベンジン、シンナーなどの薬品は、機器の表面を傷めたり変色の原因となりますので使用しないでください。

### ■ 法定点検について

- 消防法施行令で規定される特定施設水道連結型スプリンクラー設備として設置されている場合、6ヶ月ごとの法定点検が必要です。  
法定点検は専門的知識と技術を必要とするため、点検の際は、点検業者や工事店（販売店）にご相談ください。

### ■ 自主点検について

- 消防法で対象外の一般住宅に設置した場合には、法定点検の義務はありませんが、性能を維持するため6ヶ月を目安に、工事店（販売店）にご相談のうえ点検を実施してください。
- 電動弁の作動試験を年4回、自動点検できます。スプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までお問い合わせください。
- 自動点検は法定点検の代替となりません。

### ■ 予備電源の有効期限

- 予備電源は充電池を使用しています。充電池は有効期限としてその機能を維持する期間を一般的な使用環境・条件下（※）で5年と定めています。

**有効期限を過ぎると正常に作動しない恐れがあります。本機使用開始後5年、以降5年ごとに交換してください。**

（法定点検を実施している場合は法定点検時に必要に応じて交換を行います）

（消防法で対象外の一般住宅に設置した場合にはスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までお問い合わせください）

※一般的な使用環境・条件：室温0～40℃、相対湿度85%以下で年2回の定期点検を行い、年2回停電などにより電池を使用し本機を駆動させた場合

### ■ 主な機器の耐用年数

機器	耐用年数
コンシールドヘッド	設置後 約20年
スプリンクラー制御盤	設置後 約10年
電動弁ユニット	設置後 約10年
警報ブザー	設置後 約10年

- 耐用年数は設置環境、使用状況などの影響を受けるため、一概に述べることはできませんが、上記の耐用年数を目安に交換することを推奨いたします。

### ■ 故障かな？と思ったときは

- 5-5でお知らせした内容の他に、故障かなと思ったときは、点検業者やスプリンクラー制御盤の盤面または取扱説明書に記載の連絡先までお問い合わせください。

## 7 機器仕様

### 7-1. コンシールドヘッド


型名	MHSJ009-72-CP
型式承認	国検型式番号：ス第21～34号 日本水道協会認証登録番号：Z-202
標示温度 (作動温度)	スプリングラーヘッド：72℃ コンシールド部：60℃
取付場所の 最高周囲温度	39℃未満
標準圧力・流量	0.1MPa 時-30L/min 0.025MPa 時-15L/min
防護半径	2.6m
耐圧試験圧力	2.5MPa
コンシールド部落下検出	近接スイッチ（ノーマルオープン）
色	ライトグレー
質量	約 163g（保護キャップ含む）
外形寸法	φ75mm×56mm

### 7-1-1. コンシールドヘッド用保護カバー

型名	MZHJ004-P
色	ライトグレー
材質	PBT 系樹脂
質量	29g



## 7-2. スプリンクラー制御盤

型名	MUWJ001-N								
定格電圧	AC100V±10% 50/60Hz								
予備電源	DC24V 0.45Ah(停電時、1時間以上対応)								
消費電力	15VA								
音量	70dB(1mにて)								
終端抵抗	10kΩ 1/4W以上								
音声機能  注1 注2	<p>■火災警報メッセージ 「ピー、ヒュー、ヒュー、火災が発生しました。 現場を確認してください。」</p> <p>■故障警報メッセージ 「ピッ、ピッ、ピッ、故障です。 表示を確認してください。」</p> <p>■電動弁開放メッセージ 「電動弁が開きました。」</p> <p>■電動弁閉止メッセージ 「電動弁が閉まりました。」</p> <p>■電動弁開放操作方法メッセージ(ボタンを3秒以上押さなかった場合) 「ピッ、電動弁を開くには3秒以上押してください。」</p> <p>■電動弁閉止操作方法メッセージ(ボタンを3秒以上押さなかった場合) 「ピッ、電動弁を閉めるには3秒以上押してください。」</p>								
主材料・色	難燃ABS樹脂・ピュアホワイト								
寸法	高さ240×幅150×露出部奥行き17mm(埋込型)								
質量	約1kg								
設置環境範囲	室温0~40℃ 相対湿度85%以下 ただし結露のないこと								
入力	火災信号 2L 電動弁応答信号 2L								
出力	<table border="0"> <tr> <td>電動弁開閉制御</td> <td>2L</td> </tr> <tr> <td>火災移報2端子(警報ブザー用)注3</td> <td>2L(無電圧 a接点、DC30V 1A)</td> </tr> <tr> <td>火災代表移報(自動火災報知設備用)注4</td> <td>1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)</td> </tr> <tr> <td>故障代表移報</td> <td>1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)</td> </tr> </table>	電動弁開閉制御	2L	火災移報2端子(警報ブザー用)注3	2L(無電圧 a接点、DC30V 1A)	火災代表移報(自動火災報知設備用)注4	1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)	故障代表移報	1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)
電動弁開閉制御	2L								
火災移報2端子(警報ブザー用)注3	2L(無電圧 a接点、DC30V 1A)								
火災代表移報(自動火災報知設備用)注4	1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)								
故障代表移報	1L(無電圧 a接点、DC30V 1A)								

注1) 本製品は(株)アレックス社の音声技術 SodiAc を使用しております。

注2) 音声省略を選択している場合、「ピッ」などの効果音のみが鳴動します。

注3) 警報ブザー用は「音を止める」ボタンと連動し、火災信号を停止します。

注4) 自火報設備など接続した場合、作動したコンシールドヘッドを交換するなど設備を復旧しないと火災信号は停止しません。

### 7-3. 電動弁ユニット

型名	MVCJ004-25
型式承認	日本水道協会認証登録番号：E-601
口径	25A
接続ねじサイズ	R 1
使用温度範囲	-10℃～50℃(ただし弁部の凍結なきこと)
耐圧性能	1.75MPa
最高使用圧力	1.0MPa
適応流体	水道水およびそれに準ずる水
定格電圧・電流	DC24V, 0.1A (起動時 0.55A)
開閉時間	約4秒
取付方向	水平
質量	約3.7kg (ハンドル含む)
外形寸法	高さ209mm×幅305mm×奥行き112mm

### 7-4. 警報ブザー

型名	ARM 1N
定格電圧	AC100V <sup>+7V</sup> <sub>-5V</sub> - 200V <sup>+22V</sup> <sub>-18V</sub> (端子切替式) 50/60Hz
消費出力	3VA
警報出力	DC20V, 10mA
音量	75dB以上 (1mにて)
主材料・色	樹脂・ホワイト
質量	約330g
設置環境範囲	室温 -10～40℃
外形寸法	高さ140mm×幅100mm×奥行き35mm

# 保証書

発行No. \_\_\_\_\_

年 月 日

殿

この度は、当社製品をご採用いただきましてありがとうございます。

本保証書は対象機器について、保証期間中に正常な使用状態で万が一故障した場合、無償で修理または交換することを保証いたします。

保証期間中でも次の場合は有償となります。

- (1) 住宅、小規模医療・福祉施設などの用途以外で使用了場合
- (2) 井戸水、温泉水など上水道以外の水を使用した場合
- (3) 施工要領書による正常な施工を行わなかった場合
- (4) 取扱説明書による正常な使用方法以外の使用を行った場合
- (5) 不当な修理、調整、改造を行った場合
- (6) 水害、地震、落雷などの天災による損傷
- (7) 凍結による損傷
- (8) 建築躯体の変形など機器以外の不具合に起因する場合
- (9) ねずみなどの生物の行為に起因する場合
- (10) その他当社の責任によらない損傷の場合
- (11) 保証書の字句を書き換えた場合

名 称	水道連結型スプリンクラー設備 SPLash		
対象機器	・コンシールドヘッド (MHSJ009-72-CP 型)	数量	
	・スプリンクラー制御盤 (MUWJ001-N型)	数量	
	・電動弁ユニット (MVCJ004-25 型)	数量	
	・警報ブザー (ARM 1N 型) (オプション)	数量	
保証期間 (1年間)	年 月 日より 年 月 日まで		
納入先	ご住所	〒	
	ご芳名	様	
工事店	住所・店名 電話番号		
販売店	住所・店名 電話番号		

\*本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

\*本保証書は日本国内においてのみ有効です。

\*本保証書により、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

\*保証期間、工事店、販売店の住所、店名、電話番号などの記入のないものは無効です。

# **NOHMI** 能美防災株式会社

本社 / 〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL.(03)3265-0211 (代)

支社 / 北海道(011)746-6911 東北(022)221-2695 新潟(025)243-8121 丸の内(03)3213-1781  
茨城(029)239-5280 千葉(043)266-0303 北関東(048)669-2255 西関東(042)643-1520  
横浜(045)682-4700 静岡(054)340-0013 中部(052)589-3241 長野(026)227-5521  
北陸(076)252-6211 関西(06)6330-8661 京都(075)694-1192 中国(082)510-1125  
岡山(086)244-4222 九州(092)712-1560  
営業所 / 旭川(0166)25-5600 青森(017)729-0532 盛岡(019)645-0552 秋田(018)862-5086  
郡山(024)947-1194 福島(024)528-4195 羽田(03)5757-9393 渋谷(03)3461-1051  
新宿(03)5990-5770 城東(03)3626-2461 土浦(029)822-3851 宇都宮(028)637-4317  
群馬(027)328-1567 埼玉西(049)247-4640 沼津(055)955-5227 浜松(053)473-3422  
三重(059)226-9860 岐阜(058)201-3771 富山(076)444-1450 福井(0776)21-0056  
神戸(078)334-3581 四国(087)868-6811 北九州(093)583-3344 長崎(095)845-0135  
熊本(096)360-1051 大分(097)543-2778 宮崎(0985)28-8792 鹿児島(099)253-8196  
工場 / 三鷹(0422)44-5141 メヌマ(048)588-1531